

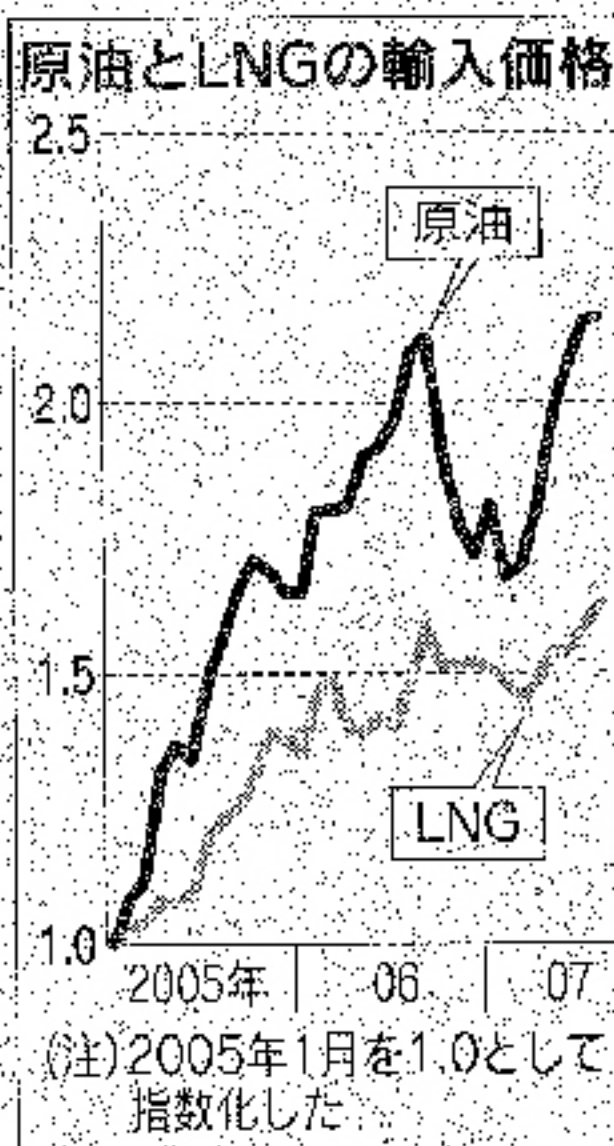
飲料工場、都市ガス転換

飲料各社が工場燃料の都市ガスへの転換を加速する。サントリーは二〇〇八年中に主力の二工場で使う燃料を都市ガスに替える。キリンビールやアサヒビールなども石油系燃料からの転換を急速に進めている。飲料工場は製品、容器を何度も加温、殺菌するため、熱の使用量が多い。燃料をガスに替えばエネルギー使用量を減らさなくても二酸化炭素(CO₂)排出を大幅に減らせる。

都市ガスの主成分は天然ガスで、燃焼によるCO₂発生量は重油より二七%、液化石油ガス(LPG)より一五%少ないのが特徴だ。

サントリーは〇八年三月に、清涼飲料の主力工

サントリー 99%目指す キリン・アサヒ 石油脱却急ぐ



油から都市ガスへの燃料転換を実施した。〇七年八月までのガス比率は八割と、二年前に比べて倍になった。アサヒも七月から福島工場(福島県本宮市)でガスの利用を始めるなど、九工場のうち八工場でガス化を完了した。使用燃料に占める〇七年の都市ガス比率は九割になる見通しだ。

原油の国際指標相場が

一八〇ドル前後で推移し、原油輸入価格は二年前の二倍を超える水準。この影響で重油の価格は過去最高水準にある。一方、液化天然ガス(LNG)の輸入価格は値上がり幅が緩やかで、熱量当たり単価が原油より割安だ。原油高騰でガスのコスト面での優位性が高まっていることも燃料転換を後押ししている。